

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	自然環境課	職	課長	氏名	中川 智夫
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理	1 絶滅危惧Ⅰ類の種数	種	183 (H22)(※1)	273 (H25)	(H26)	
		2 指定希少野生動植物種の数	件	20 (H22)(※1)	20 (H25)	(H26)	
施策2	生物多様性の恵みに対する理解の浸透	自然公園の利用者数	千人	9,000 (H25)	7,289 (H24)	(H25)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
						(年度)	(年度)						
施策1	課題1	希少種の保存	トキの繁殖数	羽	8 (H22)(※2)	31 (H25)	(H26)	トキ分散飼育費	県民	26,126			
	課題2	野生鳥獣の保護と管理	1 クマによる人身被害件数	件	0 (H22)(※1)	1 (H25)	(H26)	1 人と野生鳥獣との共生推進事業費	県民	3,146			
			2 イノシシによる農業被害額	千円	30,000 (H28)	49,777 (H25)	(H26)						
			3 シカの平均糞塊密度	糞塊/km	1.4以内 (毎年度)	1.4 (H25)	(H26)	2 大型獣対策事業費	県民	12,587			
施策2	課題1	里山里海での体験の推進	いしかわ自然学校全体の年間参加者数	人	30,000 (H22)(※2)	30,654 (H25)	(H26)	いしかわ自然学校推進費	県民	7,556			

(※1) H23以降も目標達成に向け努力  
 (※2) H23以降もさらなる拡大に向け努力

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	トキ分散飼育費		事業開始年度	H21	事業終了予定年度		
			根拠法令	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画			
			計画等				
			作組	織 自然環境課			
			成職	氏名 課長補佐 能登 守			
			者電	話番号 076 - 225 - 1477 内線 4266			

**事業の背景・目的**  
 環境省のトキ保護増殖事業計画に基づき、平成22年1月に佐渡トキ保護センターからいしかわ動物園にトキが移送され、本県でのトキの分散飼育が開始したことを受け、トキの飼育繁殖を円滑に実施することを目的とする。

**事業の概要** 26,126 千円

- 1 トキの飼育繁殖の実施  
 国の全体的な飼育繁殖計画に基づいてトキの飼育繁殖を実施し、一定の飼育個体群を形成することで、鳥インフルエンザ等の感染症による再絶滅の危険を回避する。
- 2 トキの飼育・繁殖技術の研鑽  
 トキ飼育先進地である佐渡トキ保護センター等の視察を行い、トキの飼育繁殖技術の研鑽を図る。
- 3 トキの飼育・繁殖に関する情報の収集  
 環境省が開催する専門家会合や検討会等への出席や、専門家の招へい等により、トキの飼育・繁殖に関する情報を収集する。
- 4 トキの移送  
 いしかわ動物園において増殖したトキを佐渡トキ保護センターへ返還する。
- 5 トキの普及啓発  
 トキを通じた普及啓発のため、動物学習センター内に設置したトキの展示・映像コーナーの管理、運営一式を行う。

**<参考> 環境省の動き**  
 平成19年度 多摩動物公園に緊急移送を決定。分散飼育先の選定の検討  
 平成20年度 分散飼育候補地の視察(H20早春以降)。分散飼育地の決定(H20年12月)  
 平成21年度 分散飼育実施地の視察(H21秋)。トキの移送(H22年1月)  
 平成25年度 追加繁殖1ペアの移送(H26年1月)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理					評価
課題	希少種の保存					
	指標	トキの繁殖数			単位	羽
	目標値	現状値				
	平成22年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	8	8	17	23	31	
※平成23年度以降もさらなる拡大に向け努力						
事業費						
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	22,100	21,187	19,498	21,040	26,126
	決算	21,708	21,057	19,768	20,973	
一般	予算	22,100	21,187	19,498	21,040	26,126
	決算	21,708	21,057	19,768	20,973	
事業費累計		36,425	57,482	77,250	98,223	124,349
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性						
	(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)					
今後の方向性						
	(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)					

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 人と野生鳥獣との共生推進事業	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	特定鳥獣保護管理計画(H13年度策定、H18延長)		

作成者	組織	自然環境課			
	職・氏名	主事 森岡育代			
	電話番号	076 - 225 - 1477 内線 4267			

**事業の背景・目的**

近年、一部の野生鳥獣が地域的に増加し、農林業被害や生活環境被害などの問題が発生しており、特に、平成16年度、平成18年度及び平成22年度に発生したツキノワグマの大量出没や、小松市から白山麓にかけての山間部植林地におけるクマによるスギの皮剥ぎ被害、白山麓におけるニホンザルによる農作物被害などが問題となった。

また繁殖力の強いイノシシについては、個体数の増加や分布域の拡大が近年急速に進み、平成10年には加賀市だけで確認されていた農作物被害が、平成18年には金沢以南の地域に拡大し、平成22年には珠洲市でも初めて確認されるなど、生息域が県内全域に拡大し、さらに個体数の増加が危惧されている。

また、ニホンジカの生息域が北上しており、本県での生息数の増加による農林業や生態系への被害が懸念されている。

これらのことから、クマ、サル、イノシシ、シカについて、管理目標に基づく適切な保護管理に取り組む。

- 平成26年度事業概要** (3,146千円)
- (1) **特定鳥獣保護管理計画の進行管理** (213千円)
    - ・シカ計画実施評価検討会
  - (2) **実態把握の推進** (2,745千円)
    - ①クマ・イノシシ・サルの生態、分布拡大、行動などの実態調査
    - ②クマエサ資源調査
    - ③シカモニタリング調査の実施
  - (3) **普及・啓発の推進** (188千円)
    - ①クマパンフレットの作成
    - ②シカセミナーの開催

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理					評価
課題	野生鳥獣の保護管理					
指標1	クマによる人身被害件数	単位	件			
指標2	イノシシによる農業被害額	単位	千円			
指標3	シカの平均糞塊密度	単位	糞塊/km			
目標値	現状値					
※	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	0	5	0	4	1	
	30,000	36,912	45,092	34,632	49,777	
	1.4以内	-	-	1.4	1.4	
※指標1は、平成22年度目標値で、平成23年度以降もこれを目指し努力						
※指標2は、平成28年度目標値						
※指標3は、平成25年度以降、毎年の目標値						
事業費						
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費 予算	4,800	3,800	3,314	2,863	3,146	
事業費 決算	4,496	3,623	3,197	2,578		
一般 予算	4,800	3,800	3,314	2,863	3,146	
財源 決算	4,496	3,623	3,197	2,578		
事業費累計	31,587	35,210	38,407	40,985	44,131	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
今後の方向性						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	大型獣対策事業費	事業開始年度	H23	事業終了予定年度	
		根拠法令	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、特定		
		・計画等	鳥獣保護管理計画(H13年度策定、H18延長)		

作	組	織	自然環境課		
成	職	氏名	専門員 鈴木昌代/主事・森岡育代		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1477 内線 4267

**事業の背景・目的**

(背景1 クマの大量出沒)  
 平成16年、18年、22年にツキノワグマが大量に出沒し、特に近年は、集落への出沒が多く、里山周辺でのクマの定住が危惧される。  
 このため、人身被害防止と適正な保護管理のための個体数調査とクマの生息環境の保全方策や県民への啓発普及が必要となっている。

(背景2 ニホンジカの生息域の拡大)  
 ニホンジカの生息域の北上に伴い、本県での生息数の増加による農林業や生態系への被害が懸念されることから、生息情報(分布、個体数、繁殖状況)の調査充実を図り、総合的・計画的な個体群管理を

**平成26年度事業概要**

(1) **【継続】里山クマ対策(1,587千円)**

- ・市町・地域住民を対象に、里山クマ調査結果を報告し、対策の必要性を啓発
- ・狩猟者のクマ捕獲技術向上のため、有効な事例を学ぶセミナーを開催  
 (穴熊猟、犬を使った追い込み猟など)
- ・自動撮影カメラによる継続的なモニタリング
- ・対策の効果を検証

(2) **【新規】ニホンジカ被害未然防止対策(11,000千円)**

- ・効率的な捕獲促進に繋がる各種調査の実施
- ・市町・狩猟者等を対象に、被害未然防止対策セミナーを開催し、調査結果等を提供し、捕獲意欲の喚起を行う。

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理					評価
課題	野生鳥獣の保護管理					
指標1	クマによる人身被害件数				単位	件
目標値	現状値					
H22(※)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	0	5	0	4	1	
指標2	イノシシによる農業被害額				単位	千円
目標値	現状値					
H28	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
30,000	36,912	45,092	34,632	49,777		
指標3	シカの平均糞塊密度				単位	糞塊/km
目標値	現状値					
H25	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
1.4以内	-	-	1.4	1.4		
※平成23年度以降もこれを目指し努力						
事業費						
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	5,080	5,630	3,684	12,587	
	決算	4,758	5,528	3,012		
一般	予算	5,080	5,630	3,684	12,587	
財源	決算	4,758	5,528	3,012		
事業費累計		0	4,758	10,286	13,298	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性						
(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ自然学校推進事業費	事業開始年度	H12	事業終了予定年度		作	組 織	自然環境課	
		根拠法令・計画等	ふるさと石川の環境を守り育てる条例			成	職・氏名	専門員 田中 華依子	
						者	電話番号	076 - 225 - 1476 内線 4264	

**事業の背景・目的**  
 行政や民間団体、民間事業者等が連携し、次代を担う子ども達の健全育成と自然を大切に思う県民の増加を図り、自然と人との共生する新世紀の豊かないしかわづくりを推進する。

- 事業の概要**
- 1 事業の内容
- ①いしかわ自然学校管理運営事業の実施
- (1) いしかわ自然学校事務局の運営
    - ・いしかわ自然学校の運営に係る連絡・調整
    - ・プログラムの総合的な広報活動(ホームページ掲載、パンフレットの作成等)
    - ・プログラムの実施機関からなる運営協議会の開催等
  - (2) 実施団体の育成
    - ・実施団体の企画、マネジメントの助言等を担当する専任職員の配置
    - ・短期で自然体験型環境教育の基礎を学ぶインタープリターセミナーの開催
    - ・いしかわ自然学校インストラクターの派遣等によるプログラムの質向上等
- ②自然解説事業(いしかわ自然学校プログラム)の実施
- ・本県の豊かな自然に親しみ、自然に対する関心・理解を深め、自然環境保護の普及啓発を目的とした白山室堂・南竜ヶ馬場での自然解説や医王山をはじめ県内各地での自然観察会の開催
- 2 補助金交付先
- ① 社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議 (H26.4公益社団法人化(予定))
  - ② 石川県自然解説員研究会

**これまでの見直し状況**

- ・平成14年度に「いしかわ子ども自然学校」(主管:教育委員会)本格開校
- ・平成14年度から「里山保全ワーキングホリデー」及び「イメーリアップ事業」実施
- ・平成15年度から指導者養成セミナーを拡充した「いしかわインストラクタースクール」を開校
- ・平成19年度に環境省主催の第三回エコツーリズム大賞優秀賞を受賞
- ・平成25年度に、インストラクタースクールを一旦終了し、いしかわ自然学校インストラクターの派遣による実施団体の育成事業(「自然体験プログラムづくり支援事業」)を実施
- ・平成22年度に「行財政改革大綱2011」(平成23年3月策定)において、平成27年度までに本事業の「民間団体による自主事業へ移行」が明記されたことを受け、平成26年度から、いしかわ自然学校管理運営事業を社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議へ移管及び自然解説事業を石川県自然解説員研究会に移管し委託事業から補助事業へ変更

施策・課題の状況					
施策	生物多様性の恵みに対する理解の浸透				評価
課題	里山里海での体験の推進				
指標	いしかわ自然学校全体の年間参加者数			単位	人
目標値	現状値				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	30,000	34,407	32,410	30,115	30,654

※平成23年度以降もさらなる拡大に向け努力

事業費						
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	10,000	9,281	8,805	8,782	7,556
	決算	9,984	9,170	8,802	8,734	
一般	予算	10,000	9,281	8,805	8,782	7,556
財源	決算	9,984	9,170	8,802	8,734	
事業費累計		216,301	225,471	234,273	243,007	250,563

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		